

研修 青木 伸 議員

日時：平成28年10月5日(水)～10月7日(金)

場所：北海道北広島市、北海道室蘭市

区間	交通手段		鉄道賃		特急急行	飛行機	その他	計
			キロ	金額				
佐野駅～石岡駅	鉄道	往復	191.2	3,320				3,320
石岡駅前～茨城空港	バス	往復	29.4				1,240	1,240
茨城空港～新千歳空港	飛行機	往	807.0			10,900		10,900
新千歳空港駅～北広島駅	鉄道	往	24.8	590				590
北広島駅～室蘭駅	鉄道	往	114.4	2,160				2,160
市役所前～鉄原前	バス	往復	8.2				500	500
室蘭駅～新千歳空港駅	鉄道	復	94.8	1,980				1,980
新千歳空港～茨城空港	飛行機	復	807.0			14,700		14,700
計				8,050	0	25,600	1,740	35,390

宿泊料@16,500×2泊 33,000 円

交通費 35,390 円

(うち航空運賃 25,600 円)

計 68,390 円

上記の金額は、佐野市職員等の旅費に関する条例及び佐野市職員等の旅費支給規則により算出した金額である。

議事課庶務係長

廣澤 良英



領 収 証

佐野市議会

政風会 様

28年10月18日

¥ 6,600-

但し
上記正に領収いたしました。

1/4 (165019)

天明焼

源 加藤米菓本店

〒327-0845 栃木県佐野市久保町214 大正通り
TEL 0283 (22) 1554 (代)
FAX 0283 (22) 1623

平成28年10月21日

政風会行政視察報告書

佐野市議会 議長 様

視察参加者 金子 保利 山口 孝
青木 伸 川嶋 嘉一

平成28年10月5日(水)から7日(金)まで、①北海道北広島市、②北海道室蘭市への行政視察を実施しましたので、下記の通り報告致します。

〔視察日程及び視察事業名〕

- 1、10月5日(水) 14:00～16:30
北海道北広島市 ① コミュニティビジネス創業支援事業について
② 北広島市シティセールス事業について
- 2、10月6日(木) 13:00～15:00 現地調査15:30～16:30
北海道室蘭市 ① 子育て支援のブランド化について
② 室蘭市女性活躍推進行動計画について
- 3、10月7日(金) 10:00～12:00 13:00～14:15
北海道室蘭市 ① 室蘭 green エネルギータウン構想について
② PCB 廃棄物処理施設現地調査

北海道北広島市視察概要報告

1. 北広島市(10月5日)「コミュニティビジネス創業支援事業」について、 視察報告:青木 伸

北広島市議会議長佐藤敏男氏から歓迎のご挨拶をいただき、次に議会事務局松本主査より北広島市の概要の説明を受けた。引き続き視察目的の一つ目の、コミュニティビジネス創業支援事業について、産業振興佐々木室長、宮本主査の説明を受けた。

- ①コミュニティビジネスの概要について
- ②コミュニティビジネス創業支援事業導入の経緯
- ③市とのかかわりについて
- ④コミュニティビジネスアドバイザーについて
- ⑤具体的な補助事例、現況について
- ⑥問題点と今後の課題について

以上の項目について、詳細な説明を受けて、新規に事業を起こそうとする意欲のある市民への、支援の効果を学ぶことができました。

2. 北広島市「シティセールス事業」について、

シティセールスについて政策広報平澤課長から、パワースポットを利用した説明を受けた。北広島市は、3年連続して北海道で住みよさナンバーワンになっているのに、認知度が低いという悩みがあったという。{どうしたら知ってもらえるか} = [楽しみながら知ってもらおう]



対 策

- ①北広島市に住みたくなる動画の制作、発信。
- ②ヤフージャパンへ広告掲載。
- ③住みよさNo.1ステッカーやうちわの制作、配布。
- ④バス内映像広告。
- ⑤マンガ・きたひろ「エゾリスの家族」のホームページ掲載。

市長はじめ職員がモデルやスタッフになり、全市をあげて北広島市のPRに取り組んでいます。次の事業へのアイデアがもうすでにいくつかあるという。

佐野市もPRについてはまだまだ伸ばす余地があることから、参考にするべきことがたくさんありました。



室蘭市視察概要報告

1、北海道室蘭市(10月6日)*子育て支援のブランド化について、視察報告(報告:山口 孝)

開会冒頭、室蘭市議会の佐賀・事務局長から、視察に対する歓迎の挨拶を受け、続いて保健福祉部・子育て支援室の中澤室長より「子育て支援のブランド化」について、事前に送っていただいた質問6項目の回答とあわせて、次の通り説明があった。



①子育て応援プランについては、平成26年度から開始し三年目を迎えた。また、昨年度から「①保育園、②幼稚園、③放課後健全育成」の三事業が、教育委員会から子育て支援課に移管された。そして、親子健康教室(抱っこ de ダンス、親子でリラックスYOGA等)や、子育てしている女性を対象に「復職のためのパソコン講座、起業のための基礎講座」等を実施している。

②『子育て応援や、どさんこ・子育て特典制度』については、平成27年度末で116の企業や団体が登録している。主な活動として、

企業関係では、地域貢献の一環として「子どもの体験事業・通学路の環境美化・公園の遊具整備」等実施し、商業関係では「子育て世代が協賛店を利用する際に、商品や飲食代の割引や子どもへのプレゼントなど」の特典サービスが受けられる。そして、引き続き、登録団体や協賛店を募集している。

③子育て支援事業の「こどもショートステイ」については、保護者の急な出張や病気・出産・育児疲れ等に、市の委託施設で7日以内の期間で預かり、世帯の収入状況により無料から1日5,350円までの利用料金が設定されている。また、『子育てレンジャー』として、社会福祉協議会においては、保育所や習い事などの送迎、冠婚葬祭や残業・病気の際に一時的に預かる支援事業を実施している。なお、料金(謝礼)が平日・30分250円とのことであり、子育てを手伝ってほしい(依頼会員)お困りママに対し、お手伝いできる(提供会員)お助けママの確保が、難しいとの事でした。

④安心子育て応援プランとして、多子世帯(第2子が半額、第3子以降は無料)ならびに、ひとり親世帯(第1子が半額、第2子以降は無料)等の保育料軽減や、子育て世帯のマイホーム取得への助成金(固定資産税と都市計画税が3年間1/2相当額)などを実施している。

⑤更には、子育て情報誌(むろらん子育てガイド=単年度・10,000部、子育てフリー・ペーパー「こらん」=年3回・1回25,000部)を発行し、その費用については委託業者が広告を募集(広告費300万円)し、道の補助金(260万円)、室蘭市の予算(6万円)と合わせて、発行経費は566万円との事である。

⑥このように室蘭市の『子育て応援プラン』について、施策の内容や実施状況の説明を受けて質疑・意見交換した結果、室蘭市の各種取り組みとともに、企業や商店をはじめ、市民団体、地域団体、医療関係

など、「子育て応援団」として行政との役割分担をしながら、市全体で「子育てを応援する市民協働事業」は、今後の佐野市の子育て支援策に際し、大変参考になった。

2. 北海道室蘭市(10月6日) *室蘭市女性職員活躍推進行動計画について(報告:川嶋嘉一)

室蘭市では、人口減少社会を迎える中、女性の力の発揮が不可欠として、女性職員活躍推進行動計画を平成28年4月1日から平成32年3月31日までの4年間計画している。

女性職員の活躍の推進に向けた取り組みとして、

(1)採用説明会の実施

受験者を増やす取り組みとして、第一線で活躍している男性職員・女性職員が、自ら取り組んでいる政策課題や仕事の魅力、採用試験についての説明を近隣大学及び都市部の大学で実施している。より多くの学生が参加できるように積極的なPR活動を継続して実施する。

(2)子育て制度説明会の実施

出産育児を控えた職員を対象に、産前産後休暇・育児休業等の制度や各種手当金の仕組みの理解を促す説明会を実施し、職業生活と家庭生活を両立し、安心して出産育児を迎えられるよう取り組みを実施する。

(3)キャリアデザイン研修の実施

女性職員を対象に、出産・育児期においても重要なポストで能力を発揮し、継続して働き続けられるよう「キャリアデザイン研修」を実施する。キャリアアップに対する不安や悩みを解消すると共に、自らのキャリアステージを創造し、主体的・積極的に考える力を持った人材の育成を目指している。

(4)時間外勤務の縮減

恒常的な残業を前提とした働き方は、男女ともに家事・育児等の家庭生活や、余暇における健康づくり・能力開発・趣味を楽しむことなどによる豊かな生活の実現を困難にするものです。時間外勤務を当たり前とせず、厳しい時間制約を前提とした勤務体制の構築・運営、生産性を意識した効率的業務運営や長時間労働の是正等ワークライフバランスを重視した取り組みを進めている。また、管理監督者の時間外勤務に対する意識改革に向けた取り組みを進めている。

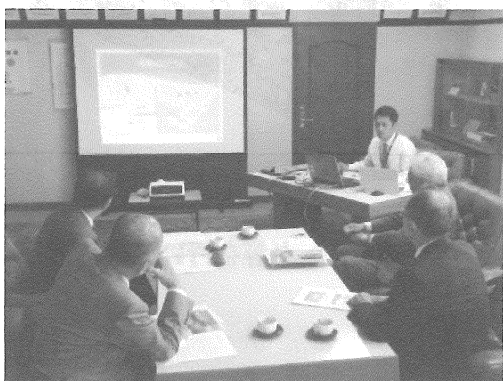
まとめ

女性の職業生活における活躍の推進を効果的に進めていくためには、女性だけではなく男性を含めた社会全体の働きかたや意識の改革が必要であり、「職員の育児参加プログラム」と本計画を両輪としながら、長期的なキャリアを通じて、女性職員が十分な能力を発揮できる環境整備を今後も進めるとの方針である。



3. 北海道室蘭市(10月7日) *室蘭グリーンエネルギータウン構想について(報告:金子保利)

室蘭市より事前質問書の要請があり、11項目の質問事項についての回答と構想について、室蘭市経済部産業振興課主幹「佐藤雅人様」より「室蘭グリーンエネルギー構想」について説明を受けました。



室蘭市は、「鉄の町」として全国に名を知らしめておりましたが、製鉄、鉄鋼生産が衰退と相まって造船需要の激減等もあり、昭和45年には162,059人の人口を擁しておりましたが昨年4月現在では88,906人となっており、人口減少に歯止めがかからない状況の中で、「ものづくりのマチ」として、蓄積された高度な産業技術や人材・企業の資源を有効に活用するため、平成15年に「室蘭地域環境産業拠点形成実施計画」を策定し、平成22年に計画終了に伴い、今後の環境産業拠点形成の方向性

を策定した。また、世界的な地球温暖化対策や東日本大震災以降のエネルギー問題への必要性を認識し、地域の自立性、地域経済の活性化、産業振興、災害時の防災機能の強化などが期待できる新たな低炭素都市形成につながるエネルギー構想の必要性を認め実現に向け取り組まれております。

そして、産学官民が連携して、「環境産業の推進」・「地域経済の活性化」・「低炭素なまちづくり」の実現を目指す「室蘭グリーンエネルギー構想」を策定したものである。

その目的は、環境産業都市としての新たな成長基盤の創出による地域経済の活性化、北海道の次代のエネルギー社会構築に向けた先導的役割、環境負荷の低減と市民にやさしく住みよい低炭素都市の創造を目指すものである。

目指す姿として、再生可能エネルギーや水素エネルギーの導入を進めと共に、地域の再生可能・未使用エネルギー等を最大限活用し、地域で必要なエネルギーを創り利用するエネルギーの地産地消を実現することにより企業活動の拡大や新規企業の立地・就業人口の増加など地域経済の活性化に繋がりたいとのことでした。

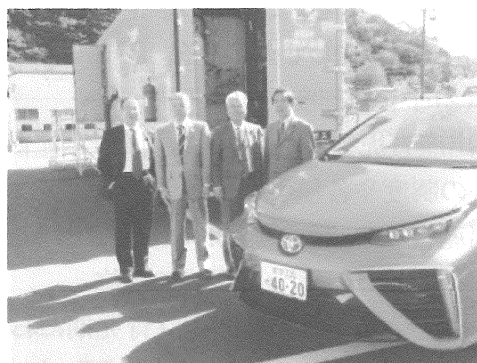
* 水素利用社会の構築

道内初・・・移動式水素ステーションと

FCV(燃料電池自動車)一体的整備

・移動式水素ステーションの概要

- 基本仕様 ○充填圧力 70Mpa
○充填所要時間 1台 3分間以内
○充填可能台数 1日5台・連続2台
○コンテナサイズ 40ft



* 室蘭市は産学官民一体となり、生き残りを掛けた「グリーンエネルギータウン」実現に向け取り組まれております。

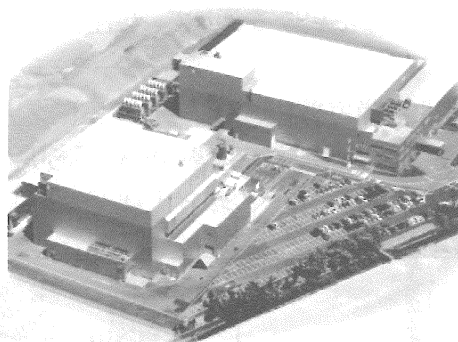
4. 北海道室蘭市 PCB 廃棄物処理施設(10月7日) 13:00~14:15

中間貯蔵・環境安全事業株式会社・北海道PCB処理事務所の審議役兼総務課長の「田野洋」総務課長の事業内容の説明を受けた後、現地での説明を行っていただいた。

この施設は、全国処理施設の一つで1都1道18県のPCB廃棄物の処理を行っている。

平成20年5月に当初処理施設の操業が開始され主にPCB廃棄物の高圧トランス・コンデンサ等を処理しており、平成25年9月に増設処理施設の操業が開始され、PCB廃棄物の安定器等・汚染物の処理を主に行っております。

PCBの国内使用量(1954~1972年)と主な用途は、トランス(約5万台)、コンデンサ(約160万台)、安定器(約560万個)など電気機器用37,156tで56%を占め、熱媒体用8,585t、16%、ノンカーボン紙用5,350t、10%、その他2,910t、5%の総量54,000tものPCB廃棄物を全国5カ所の施設で処理を行っている。



室蘭の処理施設では、試運転から平成28年7月までにトランス類、登録台数4,185台の内3,366台を処理し、80.4%の進捗率である。コンデンサ類は、登録台数60,698台の内50,445台を処理し、進捗率は83.1%である。安定器等・汚染物は登録重量は6,358,545Kgで33.6%を処理している。

緊急時の対策、作業従事者の健康を守る対策、排出源、周辺環境モニタリング等を行い環境対策等に万全を期して処理を行っているとのことでした。